



■農作業事故に気を付けましょう

毎年、農作業が集中する春と秋の農繁期を中心に、農作業事故が多く発生しています。

日々の作業から常に「安全」を意識し、慣れや油断による事故の発生を防止しましょう！

①トラクター等の乗用作業機械の安全作業の基本について

①作業をしていない時は左右のブレーキを連結させましょう

トラクターのブレーキは、左右分かれていきますので小回りが利き便利です。しかし、ほ場から道路へ出る時や、道路走行時に連結操作をせずブレーキを片側だけかけてしまうと、急旋回・転倒事故が発生してしまいます。作業時以外は必ずブレーキを連結させましょう。

②ほ場の出入りは、低速で直角に進入しましょう

ほ場への進入路を整備し適切な幅と傾斜を設けましょう。また、段差の大きい場合は、ブリッジ等を使い、低速で直角に進入しましょう。

また、進入路以外からのほ場の出入りは控えましょう。

③急な斜面はバックで上がりましょう

ロータリーをつけたトラクターは重心が後ろに偏っており、無理をすると前輪が浮き上がり転倒の危険がありますので、急な斜面はバックで上がりましょう。

また、人を乗車位置以外の場所へ乗せる事は大変危険ですのでやめましょう。

②その他

①畦を補修しましょう

農地の区画整理から年月が経過した畦は、モグラによる被害や長年の風化によりぼろぼろに崩落し、天井部分が削り取られ、傾斜しているところが見られます。

このような畦では、農薬・肥料の散布中の転倒や足の打撲、捻挫等の恐れがあります。事故を未然に防ぐため、危険な畦は畦塗による補修を行いましょ。

②刈払機を使用する際は、不安定な姿勢、斜面に注意しましょう

草刈機による事故という「回転する刃で身体を切った事故」が多いと思われがちですが、実際には傾斜面での転落や不安定な姿勢でのアキレス腱の損傷等が多く見られます。

このため、傾斜面では安定した姿勢を保つことを常に心がけ、スパイクつきの靴の着用や、小段を設置して足場を確保するなどに努めましょう。



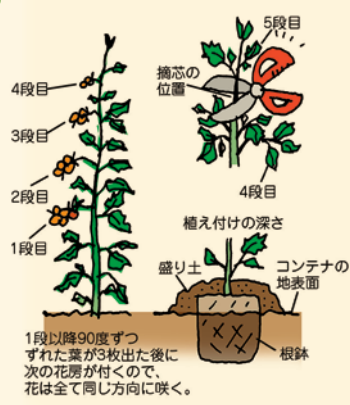
ミニトマト

こぼれ種からでも育つほど生命力が強く、作りやすい野菜です。実が割れやすいなどの欠点がありますが、果色や果形が異なっているいろいろな品種があり、食も栽培も子どもと一緒に楽しめます。

コンテナは深く大きいほど作りやすくたくさん収穫できます。60×70cm×26×30cm、深さ30cm程度の深めのものなら、3株植えて各株4段(果房)は収穫できます。

苗を購入するのがお勧めです。果形や果色など品種を確認して子葉が残る、節と節の間が詰まったズングリとした苗を選びます。

購入したらすぐに植えますが、本葉が6〜7枚で一番花が咲いた状態の苗が理想です。株間は20cm、ポリポットから苗を抜いたら根鉢を崩さないようにそのまま植えます。花の向きをコンテナの外側に向け(※)、根鉢の4分の1がのぞくくらい浅植えにし、根鉢が隠れるように盛り土をします。植え付け後はたっぷり水やり、仮支柱を立てます。その後なるべく早い時期に、長さ180cm、直径18cmくらいの本格的な支柱を立てます。支柱へは茎の成長を見越してひも



1段以降90度ずつずれた葉が3枚出た後に次の花房が付くので、花は全て同じ方向に咲く。

を8の字に掛け緩めに結びます。成長するに連れて脇芽が旺盛に出てくるので、取り遅れないように小まめに取り、主枝1本に仕立てます。ある程度伸びたら摘芯をして伸び過ぎを防ぎます。摘芯は4段果房の上の本葉を2枚残しはさみで切ります。摘芯後は、脇芽は放任し、込み合うときだけ取ります。

追肥は3段目の開花の頃に、1株当たり30gのぼかし肥を株から少し離れたところ3カ所に株を囲むようにまきます。果実全体が色づいたら収穫します。果実を軽くつかみ、手で傾けるようにすると簡単にもぎ取れます。一つの果房の収穫が終了したら、風通しを良くし病害虫を防ぐためその下の葉は取り除きます。

※第1花房と同じ方向に果房が出るので収穫しやすい。